

スギ花粉に隠れたハンノキ花粉 ハンノキにも注意！

問診で口腔症状がある患者さんには スギ・ヒノキに加えてハンノキ特異的 IgE も測定しましょう

◆ハンノキ（榛の木）って？

- ・ハンノキは、ブナ目カバノキ科で身近な公園から山地など日本各地に分布しています。
- ・スギ花粉より早く1月から花粉を飛散し春に注意が必要な花粉です。
- ・ハンノキ感作例ではPFS（花粉関連食物アレルギー症候群）を合併することが報告され¹⁾、合併率は7～55%と報告されています^{1～4)}。

アレルギー性鼻炎患者での地域別陽性率

	北海道・東北	関東	東海	近畿	中国・九州
スギ	32.0	68.5	65.3	57.6	51.2
カモガヤ	24.0	26.8	42.7	36.7	35.4
ハンノキ(属)	14.7	14.8	9.3	23.0	21.6
ブタクサ	12.0	11.4	13.3	18.0	13.4
ヨモギ	17.3	12.1	21.3	26.6	21.6

鼻アレルギー診療ガイドライン2013より改変

ブナ目：秋にどんぐりの実をつける樹木の多くがブナ目で、ブナ目花粉間では交差反応性が高いため知らず知らずのうちになんらかのブナ目に感作されている可能性が高いです。ブナ目の感作確認には、ハンノキ特異的 IgE 検査で十分と考えられます⁵⁾。ただし、北海道や長野県などの地域ではシラカンバの測定が好ましいです。



◆ハンノキ花粉感作に合併する PFS（花粉関連食物アレルギー症候群）

- ・PFS (Pollen-associated food allergy syndrome) は、花粉症に合併することが多い食物アレルギーで、口腔粘膜を中心に比較的軽微な症状を発現します。
- ・花粉症の増加に伴い PFS も増加傾向にあります⁶⁾。
- ・特定の食物（果物・野菜等）を食べた数分後に、唇・口・喉などにイガイガ感やかゆみ・腫れなどアレルギー症状を引き起こします。
- ・PFS ではどの花粉に感作されているかによって症状を誘発する原因食物は異なります（裏面表）。

ハンノキ花粉と関連性が報告されている主な食物⁷⁾

PFS：口腔・咽頭粘膜に局所する即時型アレルギー症状が多いため、その大部分を OAS (Oral allergy syndrome：口腔アレルギー症候群) 症例が占めます。

◆カバノキ科花粉症による成人大豆アレルギーにご注意ください。

カバノキ科（ハンノキ、シラカンバ）花粉症に合併する PFS は、口腔症状が多いとされていますが、豆乳や水分を多く含むやわらか系豆腐等の大豆製品摂取後に重篤なアレルギー症状を起こした例が報告されています^{8～12)}。これらは、カバノキ科花粉中のコンポーネントと大豆中のコンポーネントとの交差反応性と考えられています。カバノキ科花粉感作例での大豆アレルギー（豆乳など）の診断には、Gly m 4（大豆由来）の測定が有用です。Gly m 4は、大豆が含有するアレルゲンコンポーネントの一つです。



特異的 IgE 検査の意義

原因アレルゲンの特定は治療のベースとなります。ハンノキ花粉のようにスギ花粉と飛散時期が重なる場合、春先の症状からではどの花粉に感作されているかの判別は難しいです。そのためアレルギー検査等の活用は、原因アレルゲン特定の参考になります。原因アレルゲンを特定することで、注意すべき時期、投薬期間、関連する食物の回避など患者さん一人ひとりに合わせた治療方針を立てることができ患者さんのアドヒアランス向上へと繋がります。

監修

福井大学医学部附属病院 副病院長

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 科 長 教授 藤枝 重治 先生



